

症例基盤・問題解決型学修（発展）

責任者・コーディネーター	総合診療医学分野 下沖 収 教授		
担当講座・学科（分野）	総合診療医学分野、医学教育学分野、地域医療学分野、腫瘍生物学研究部門		
担当教員	下沖 収 教授、伊藤 智範 教授、田島 克巳 教授、前沢 千早 教授、高橋 智弘 講師、相澤 純 特任講師、星川 浩一 特任講師、山田 哲也 助教、菊地 大輝 助教		
対象学年	3	区分・時間数	講義 0コマ 0.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 8コマ 12.0時間

・学習方針（講義概要等）

基本症例集及び仮想の患者さんについて、症候や病態について基礎医学ならびに臨床医学の知識を基に論理的に考え、診断にいたるプロセスを学ぶ。加えて疾患の病態生理を理解し、各治療の作用機序、有害事象、QOLへの影響を考えて治療法を選択、疾病予防や社会復帰、在宅復帰のために必要な条件や社会資源についても知り、それをもとに患者中心の医療について考察する。小人数グループで調べて、プレゼンテーション資料を作成、発表と討議を行うコースである。

・教育成果（アウトカム）

症例をベースにして症候から診断、治療、さらには社会（在宅）復帰までをトレースして考察することで、疾患の理解に留まらず社会の中の人間を診る（全人的視点）態度を養う。また、小人数グループ作業によるPBLを行うことで、チームとして作業をする上で必要な、役割分担の能力とコミュニケーション能力を向上させる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	与えられた症例の症候について、解剖、生理学的に説明できる。
2	病歴、身体所見から鑑別診断を挙げることができる。
3	与えられた臨床データ（検体検査、生理検査、画像検査、特殊検査）を解釈し診断に到ることができる。
4	治療法について、病態生理、薬理作用を基に説明できる。
5	治療法の選択において、考えられる有害事象やQOLへの影響を説明できる。
6	疾病予防や再発予防、社会復帰や在宅復帰のために必要な条件や社会資源を述べるができる。
7	グループ作業において、役割を果たすことができる。
8	自己学修の記録をつけることができる。
9	プレゼンテーションソフトを使い、発表資料を準備できる。
10	制限時間内で、論理的かつ明快な発表ができる。
11	発表された症例の問題点（医療やケアを行う上で）を把握し、第三者に伝達できる。

・講義場所

講義：西1-C講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
実習	5/1(金)	3	総合診療医学分野 総合診療医学分野 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野 腫瘍生物学研究部門 総合診療医学分野 総合診療医学分野 総合診療医学分野	下沖 収 教授 高橋 智弘 講師 伊藤 智範 教授 田島 克巳 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授 星川 浩一 特任講師 山田 哲也 助教 菊地 大輝 助教	コースオリエンテーション （講義スタイル）	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11
実習	5/1(金)	4	総合診療医学分野 総合診療医学分野 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野 腫瘍生物学研究部門 総合診療医学分野 総合診療医学分野 総合診療医学分野	下沖 収 教授 高橋 智弘 講師 伊藤 智範 教授 田島 克巳 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授 星川 浩一 特任講師 山田 哲也 助教 菊地 大輝 助教	グループ学習演習	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11
実習	5/15(金)	3	総合診療医学分野 総合診療医学分野 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野 腫瘍生物学研究部門 総合診療医学分野 総合診療医学分野 総合診療医学分野	下沖 収 教授 高橋 智弘 講師 伊藤 智範 教授 田島 克巳 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授 星川 浩一 特任講師 山田 哲也 助教 菊地 大輝 助教	グループ成果物の発表 【東1C、西4A、西4B】	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11
実習	5/15(金)	4	総合診療医学分野 総合診療医学分野 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野 腫瘍生物学研究部門 総合診療医学分野 総合診療医学分野 総合診療医学分野	下沖 収 教授 高橋 智弘 講師 伊藤 智範 教授 田島 克巳 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授 星川 浩一 特任講師 山田 哲也 助教 菊地 大輝 助教	グループ成果物の発表 【東1C、西4A、西4B】	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11
実習	6/9(火)	1	総合診療医学分野 総合診療医学分野 医学教育学分野 医学教育学分野 腫瘍生物学研究部門 総合診療医学分野 総合診療医学分野 総合診療医学分野	下沖 収 教授 高橋 智弘 講師 田島 克巳 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授 星川 浩一 特任講師 山田 哲也 助教 菊地 大輝 助教	グループ成果物の発表 【東1C、西4A、西4B】	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11
実習	6/9(火)	2	総合診療医学分野 総合診療医学分野 医学教育学分野 医学教育学分野 腫瘍生物学研究部門 総合診療医学分野 総合診療医学分野 総合診療医学分野	下沖 収 教授 高橋 智弘 講師 田島 克巳 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授 星川 浩一 特任講師 山田 哲也 助教 菊地 大輝 助教	グループ成果物の発表 【東1C、西4A、西4B】	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11
実習	6/18(木)	3	総合診療医学分野 総合診療医学分野 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野 腫瘍生物学研究部門 総合診療医学分野 総合診療医学分野 総合診療医学分野	下沖 収 教授 高橋 智弘 講師 伊藤 智範 教授 田島 克巳 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授 星川 浩一 特任講師 山田 哲也 助教 菊地 大輝 助教	グループ成果物の発表 【東1C、西4A、西4B】	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11

実習	6/18(木)	4	総合診療医学分野 総合診療医学分野 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野 腫瘍生物学研究部門 総合診療医学分野 総合診療医学分野 総合診療医学分野	下沖 収 教授 高橋 智弘 講師 伊藤 智範 教授 田島 克巳 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授 星川 浩一 特任講師 山田 哲也 助教 菊地 大輝 助教	グループ成果物の発表 【東1C、西4A、西4B】	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11
----	---------	---	--	--	-----------------------------	-------------------------

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	岩手医科大学基本症例集（オープン問題）			
教科書	内科診断学 第3版	福井 次矢、奈良 信雄 編集	医学書院	2016
参考書	Global Health Risks -Mortality and burden of disease attributable to selected major risks-	WHO		2009
参考書	地域医療テキスト	自治医科大学監修	医学書院	2009
参考書	へき地・離島医療マニュアル(web (http://www.hekichi.net/index.php/bunsho/bunsho_c)	地域医療振興協会		
参考書	日本プライマリ・ケア連合学会 基本研修ハンドブック改訂2版	日本プライマリ・ケア連合学会	南山堂	2017

・成績評価方法

<p>・チーム成果物発表時に評価表を基に自己評価・他者評価し、発表チームにフィードバックする。（認知・精神運動・情意領域：形成的評価）</p> <p>・チーム成果物発表後に確認テストを行い、終了後に解説を配布する。（認知領域：形成的評価）</p> <p>・評価表と確認テスト回答シートは毎回回収し、出席確認として扱う。（情意領域：形成的・一部総括評価）</p> <p>【総括評価】</p> <p>・ポートフォリオ等の提出物 13点満点（認知・精神運動・情意領域）</p> <p>※ポートフォリオ評価は以下の観点で行うが、評価基準をルーブリックとして提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料の整理と書き込み ・独自の資料収集 ・学修資料の作製 <p>・客観試験 60点満点（認知領域）：教科内で取り扱った領域から多肢選択式問題</p> <p>・成果物発表会27点満点（学生の相互評価を参考にし、教員が選定した最優秀ベストパフォーマンス賞チーム9点、優秀パフォーマンス賞チーム8点、それ以外のチーム6点とし、計3回分を合計する）（認知・精神運動・情意領域）の配分で全100点中60点以上を合格点とする。</p> <p>・発表者は、原則的に当日教員が指名するので、チーム全員が発表できるように準備しておくこと。</p> <p>・発表会の中で、意義のある質問や意見を発言した者に1点を加点する（コース全体で6点まで）。評価基準についてのルーブリックを提示し、教員間の評価基準の統一も図る。</p> <p>・コース全体を通じて、チーム内での貢献度を班員相互に評価する。最も貢献度が高かった班員に4点、次に貢献度が高かった班員に2点を加点する。（ただし、班員全員が同じ点数の場合には、全員に加点しない）</p> <p>・以上の基準により採点し、60点以上を合格とする。なお、加点により合計点が100点以上になった場合でも、総括評価は100点として扱う。</p>

・特記事項・その他

<p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。講義・実習内で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、解答例を含む解説書を配布するか、次回の授業で追加解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。</p>

・教育資源

講義室、PC、インターネット環境、プロジェクター、マイク、教科書、参考書等

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器	器具はありません		